お賽銭に100万入れたら巫女様が媚び媚びオナホご奉仕してくれた件

※一部本編と異なる場合があります

トラック０１　プロローグ

奏　「あ♪　叔父様♪　こんな深夜にも関わらず当神社、藤ノ宮神社へお越しいただきありがとうございます♪」

奏　「ふふ♪　そんなキョトンとした顔をされて♪とっても可愛らしいです♪」

奏　「えぇ、分かっております♪　何故叔父様をこんな時間にお呼びしたのか、説明させていただきますね」

奏　「実は……私、見てしまったんです」

奏　「誰もいない深夜に叔父様が、そのぅ……我が神社のお賽銭箱にお札の束を入れていくところを」

奏　「後で確認してみたら、少なくとも100万円は入っていまして……」

奏　「叔父様？　どうしてこんな大金を我が神社に奉納してくださったんですか？」

奏　「理由はやっぱり……私の為……なんですね……」

奏　「ふふ……確かに我が家は、この小さくて寂れた神社しか持たない貧乏な家庭で、私も大学進学は半分諦めていましたが」

奏　「そうですか……私の受験や入学費の為に」

奏　「本当に叔父様はお優しいんですね」

奏　「ですが、このまま叔父様のご厚意に甘える訳にはいきません」

奏　「ですから、私、考えたんです」

奏　「お金も資産もない我が家でも、叔父様のご厚意に報いる方法がないか」

奏　「その結果が……こちらです♪」

奏　「ふふ♪　この衣装、いかがですか？」

奏　「もう使わなくなった巫女服を仕立て直して作った、叔父様にご奉仕する為のドスケベ衣装です♪」

奏　「はぁ～……ん♪　流石に日も出ていない夜更けに肌を晒しては、些か冷えますね♪」

奏　「……はぃ♪　叔父様のご想像通り、叔父様のご厚意には、私のこの、下品でドスケベなメスの体でお返しさせていただきますので」

奏　「どうか今宵は、私のご奉仕に溺れてくださいませ♪」

トラック０２　ファーストキスご奉仕＋包茎おちんぽ弄り

奏　「ご奉仕する前に、まずは叔父様の呼び名から改めましょうか」

奏　「何故って、私は今から叔父様にこの身を捧げてご奉仕させていただくのですよ？」

奏　「今後叔父様には私の所有者に♪　主になっていただくのです♪」

奏　「そんなお方をただの叔父様呼ばわりするだなんて許されません」

奏　「で・す・か・ら♪　今後叔父様をお呼びする際は、『主様♪』と呼ばせていただきますね♪　あ・る・じ・さ・ま♪」

奏　「ふふ♪　では主様♪　早速、私の忠誠の証をお受け取り下さい♪」

奏　「ん～～……ちゅ♪」

奏　「ん、はふぅ♪」

奏　「ふふ♪　ん♪　成程♪」

奏　「ファーストキスとはこのような感じなのですね♪」

奏　「主様……もぅ少し続けさせてくださいませ♪」
奏　「はぁむ♪　んちゅ♪」
奏　「ん、ぷはぁ♪　ん、ふぅ♪」
奏　「主様とのキス、とっても甘くて気持ちいいです♪」
奏　「それに、ちゅ♪　やはり、主様はキスがお上手ですね」
奏　「もしかして、今までにもキスした事がおありなのですか？」
奏　「もしそうでしたら、ちゅ♪　少々嫉妬してしまいますね」
奏　「はぁむ、ちゅ♪　ん～、ちゅ♪　ぷちゅ、ちゅ、ん～……ちゅ♪」
奏　「主様ぁ……♪　いかがですかぁ？　私のキスぅ……♪　ん～、ちゅ♪」
奏　「今日はぁ♪　んちゅ♪　主様が今までしてきたキスなど忘れてしまうくらい、ずぅ～～っとキスしてさしあげますねぇ♪」
奏　「さぁ♪　お口を開けて、ベロをれ～～っと出して～♪」

奏　「はぁ～む♪　んちゅ♪　ちゅ、むッちゅぅぅぅぅ～～～～♪」

奏　「ん、ぷはぁ♪　はぁ、んふふ♪　主様ぁ♪」

奏　「あぁ♪　素敵です♪」

奏　「主様とベロを絡ませ合うスケベなキス♪」

奏　「はぁ～♪　唾液と唾液を混ぜ合う、ドスケベなキッス♪」

奏　「ふふ♪　主様も興奮してくださってるのですね？」

奏　「だって、ここ♪　主様のおちんぽ様♪　すっかり勃起されておりますよ？」

奏　「こんな素敵なおちんぽ様を見せつけられたら、あぁん♪　私も興奮してしまいますぅ♪」

奏　「はぁ♪　主様ぁ♪　ん、ちゅ♪」

奏　「互いに変態同士♪　仲良くエッチなキスを致しましょう？　んむッちゅぅぅぅぅ♪」

奏　「ん♪　もっとぉ♪　キスしたままでいいですからぁ♪　もっと私の体を抱きしめてください♪」

奏

「巫女としてはあまりにも下品すぎる私の体をぉ♪
指がメス肉に沈み込むくらい強く抱きしめて欲しいんですぅ♪」

奏

「ん、あぁん♪　んふぅ♪　主様ぁ♪　ん～……ちゅ♪　れろれろ♪　ちゅぷ♪　んちゅぅううう♪」

奏

「ん、ぷはぁ♪　あぁ♪　熱い♪　んちゅ♪　ぷちゅ♪」

奏

「おちんぽ様の熱が、ぁん♪　おまんこに伝わってきます♪」

奏

「はぁ、はぁ♪　あぁん♪　おまんこにもぉ♪　下品に垂れさがったナガチチにもぉ♪　主様の体温感じます♪　主様の情欲が伝わってきますぅ♪」

奏

「はぁ、はぁ♪　主様ぁ♪　嬉しぃ♪　私に興奮してくださって……ちゅ♪　ん～、ちゅ♪」

奏

「ん、はぁ～～、む♪　んちゅ♪　じゅるる♪
じゅるじゅるじゅるじゅる♪」

奏

「ん、ぷはぁ♪　主様ぁ♪　ん、ちゅ♪　ふふ♪
おちんぽ様とっても苦しそう♪」

奏

「我慢汁がズボンに染みこんでしまって♪」

奏　「主様のおズボン、お脱がしさせていただきますね♪」

奏　「ん、主様は楽にしててください♪　私が全て、んっしょ……脱がして差し上げて……きゃん♪」

奏　「わぁ～～♪　これが主様のおちんぽ様なのですね♪」

奏　「硬さも大きさもご立派で♪　とっても素敵なおちんぽ様です♪」

奏　「ただ……ふふ♪　あらあらあらあら♪」

奏　「おちんぽ様の先っぽ♪　亀頭がぜ～んぶチン皮に隠れられて♪」

奏　「主様のおちんぽ様は少々恥ずかしがり屋さんみたいですね♪」

奏　「あぁん♪　何と可愛らしいおちんぽ様なのでしょう♪」

奏　「主様ぁ♪　主様のおちんぽ様ぁ♪　ん、えい♪」

奏　「て、きゃん♪　おちんぽ様跳ねました♪」

奏　「ふふ♪　そんなに可愛らしい反応をされては、ん♪　堪らなくなってしまいます♪」

奏　「主様ぁ♪　ん、ちゅ♪　ぶちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

奏　「いいんですよ？　今宵の私は主様だけの巫女さんですから♪」

奏　「主様の欲望を♪　主様の願いを♪　どうか私にぶつけてくださいませ♪」

奏　「……はい♪　かしこまりました♪」

奏　「主様とドスケベキッスしながら、おちんぽ様イジイジして差し上げますね♪」

奏　「はぁ～♪　主様ぁ♪　んちゅ♪　じゅるじゅる♪　んぷ♪　ちゅ♪　ん～、ちゅ♪」

奏　「ん♪　指におちんぽ様から漏れ出るチン汁を塗して♪」

奏　「は～い♪　おちんぽ様ぁ♪　チン皮シコシコ♪　チン皮シコシコ～♪」

奏　「皮オナで伸びきっただらしないチン皮で～♪　チン皮シコシコ♪　チン皮シコシコ～♪」

奏　「ふふふ♪　主様？　この白くてネバっとした塊は一体何でしょう♪」

奏　「ここからでも分かります♪　とっても臭くて汚い、最ッ低な汚れ♪」

奏　「これってもしかして～♪　おちんぽ様の精液やおしっこが固まった物」

奏　「俗にいう『チ・ン・カ・ス♪』ではありませんか？」

奏　「あぁ♪　やっぱり♪」

奏　「はぁ～♪　これがチンカス♪　おちんぽ様の汚れ♪」

奏　「ん♪　ちょっとだけ失礼して♪」

奏　「ぁ♪　黄ばんだチンカスが剥がれて……あぁん♪　これが主様のチンカス♪」

奏　「とっても生臭くて、ムワっとしていて♪」

奏　「スン♪　スンスン♪　すぅ～……、おほっ♪　、ぉ♪　、おふぅ♪　ん、んふふ♪」

奏　「何て最低の香り……♪　あまりの臭さに思わずメス声を上げてしまいました♪」

奏　「んふぅ♪　あぁ♪　チンカスぅ♪　主様のチンカスとっても美味しそう……♪」

奏　「ん、ごく……♪　主様ぁ？　こちら♪　おちんぽ様のチンカス♪　味見させていただきますね♪」

奏　「はぁ♪　主様の採れたてチンカス、いただきま～す♪　あぁ～む♪」

奏　「はむ♪　あむあむ♪　ん～、くちゃくちゃくちゃくちゃ♪　くちゃくちゃくちゃくちゃ♪」

奏　「ごく♪　ごく♪　ごく……ん、ぷはぁ♪　はぁ～♪　くッッッさ♪」

奏　「って、ふふ♪　すみません♪　思わず本音が漏れてしまいました♪」

奏　「ですが……ん、じゅるるるる♪　ぷはぁ♪　あぁ♪　くッさ♪　くッッッさ♪」

奏　「苦くてしょっぱくて、ツンっとしたおしっこの味も混じって……♪」

奏　「はぁ～くッッさ♪　チンカスくッッッさ♪」

奏　「はぁ～……申し訳ありません♪」

奏　「こんなチンカス臭いお口で主様とキスする訳にはいきませんから、一度水で濯ぎに……って、んむぅ！？」

奏

「んぷ！　じゅるじゅる♪　んちゅ♪　ぶちゅ♪
ちゅ、ん、あるじひゃま……♪　ん、あぷっ♪」

奏

「んれろれろ……じゅるる♪　んぷっ♪　ん、ちゅ
♪　ちゅ、ん～、ぷはぁ♪　はぁ、はぁ♪」

奏

「こんなチンカス臭い私とキスを？　ぁ……♪　主
ひゃま……♪　んちゅ♪」

奏

「ちゅぷ♪　ん、ちゅ♪　ぶちゅ♪　ちゅぷぷ……
♪」

奏

「んぁ♪　主ひゃまぁ……♪　ちゅ♪　素敵ぃ♪
あぁ……♪　はぃ♪　好きです♪　主様ぁ♪
はぁむ♪」

奏

「ん、ぷはぁ♪　はぁ、はぁ♪」

奏

「あぁ♪　やはり私の見立ては間違っていませんで
した♪」

奏

「普段の清楚な私だけでなく、チンカスに発情して
しまうドスケベな私をも受け入れてくださる懐の
深さ♪」

奏

「私の全てを受け入れてくださる主様は、叔父様を
置いて他にいません♪」

奏

「あぁ♪　やっと……♪　十数年生きてきてやっと
巡り合えた、私の愛しい主様ぁ♪」

奏　「はい♪　好きです♪　私、藤ノ宮奏は主様の事を、お慕い申し上げております♪」

奏　「どうか、私の愛を♪　私の初恋を♪　主様のおちんぽ様で感じてくださいませ♪　ん……ちゅ♪」

トラック０３　耳元囁き舐めチンカス弄り

奏　「主様♪　んちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

奏　「はぁ♪　好きです♪　大好きです♪　ん～ちゅ♪
　　ちゅ、ちゅ♪」

奏　「ふふ♪　やはり気になりますか？　私の長く垂れ
下がった、デ・カ・チ・チ♪」

奏　「構いませんよ？　今までは見せる相手もおらず、
持て余しておりましたから♪」

奏　「今後はこの、なが～くたぷ～んっと実ったデカチ
チは、主様だけの物です♪」

奏　「で～す～か～ら～♪」

奏　「主様に媚びを売る為だけのエッロい巫女服に包ま
れたぁ♪　メス巫女のデカチチ♪」

奏　「主様のお手々でたっぷり揉んで、搾って、弄んで
くださいませ♪」

奏　「ん～……ちゅ♪　れ～～ろれろ♪」

奏　「んやぁ♪　主様ぁ♪　乳輪ナデナデ、あぁん♪
それダメですぅ♪　ん～♪」

奏　「はぁ～♪　もぅ♪　主様ってばぁ♪　ん～……
ちゅ♪」

奏　「お願いします♪　乳輪だけではなく、先っぽ♪」

奏　「下品に勃起している私の乳首♪　弄ってくださいませ♪」

奏　「んぁ♪　やっ♪　あぁん♪」

奏　「主様ぁ♪　ん、ぁん♪　イイです♪」

奏　「ん♪　乳首ぃ♪　勃起乳首気持ちいぃん♪　あぁん♪」

奏　「主様の男らしい指に押しつぶされてぇ♪　んほっ♪　〝お♪　〝おぉぉん♪」

奏　「下品な声漏れますぅ♪　んほぉ♪　〝お♪　〝お♪　〝お♪　〝お〜〜♪」

奏　「んふぅ♪　す、すみません……♪　私もぉ♪　お耳ご奉仕ぃ♪　続けさせていただきますねぇ♪」

奏　「んん♪　ふふ♪　主様ってば♪　片手でデカチチを揉みながらぁ♪　もう一方は太ももですか？」

奏　「全く♪　欲張りさんですね♪」

奏　「あぁ♪　嬉しいです♪　もっともっと私の体に溺れてください♪」

奏　「この下品に垂れ下がったデカチチも♪　丸太のように肥えた太ももも♪」

奏　「甘い蜜で濡れそぼったおまんこも♪　くっさい香りをまき散らすケツ穴も♪」

奏　「全て主様だけの物ですから♪　ん～ちゅ♪　お好きなように弄ってください♪」

奏　「ん～ちゅ♪　ん♪　ぁん♪　はぁ、はぁ♪　あぁ♪　好きぃ♪　主様ぁ♪　主様ぁん♪　んれ～～ろれろれろ♪」

奏　「んはぁ♪　主様ぁ♪　私、主様のお耳を舐めていたら、ちょっとお口が寂しくなってしまったので～♪」

奏　「主様のこれ♪　チン皮の中で蒸らされたチンカスチーズ♪　少し摘まみ食いさせていただきますね♪」

奏　「ふふ♪　さぁおちんぽ様ぁ♪　チン皮の中に隠された恥ずかしくてくっさいチンカス♪」

奏　「私に見せてくださいね♪」

奏　「このようにぃ♪　チン皮の両端を摘まんで……チン皮ムキムキ♪　チン皮ムキムキ♪」

奏　「あぁん♪　ペリペリってチン皮が剥がれてきましたね♪」

奏　「はぁ♪　ん、しょ♪　ん、しょ♪」

奏　「あらあら♪　段々チンカスの匂いが濃くなってきて♪」

奏　「ん、ごく♪　主様？　チン皮、ズルっと剥きますね？　そ～、れ♪」

奏　「チン皮ムキムキ～～♪」

奏　「って、まぁまぁ♪　ふふふ♪　主様の可愛らしいチン皮♪　ズルっと剥けちゃいましたね～♪」

奏　「すぅ～……くん♪　くんくん♪」

奏　「んぉ♪　ぉ♪　んぐ♪　はぁ、はぁ♪」

奏　「あぁ♪　くッッさ♪　んぉ♪　んふぅ♪　あぁ♪　とっても濃くて臭い匂い♪」

奏　「ふふ♪　主様ってば、チンカスを溜めすぎですよ？」

奏　「こんな臭くて汚いチンカスおちんぽ様では、きっと風俗で遊ぶ事もできなかったのでしょう？」

奏　「ですがご安心ください♪　この臭くて汚いチンカスも、私にとってはご褒美ですから♪」

奏　「ん……はぁ♪　主様のチンカス♪　チン皮で熟成されたくっさいおチンカス♪」

奏　「はぁ～♪　チンカス♪　チンカス♪　チンカス♪　チンカス♪」

奏　「主様のぉ～♪　チ～ン～カ～ス♪」

奏　「ふふ♪　こちら、指で掬い取りまして」

奏　「主様の熟成チンカス♪　いただきますね♪」

奏　「はぁ～む♪」

奏　「ぷはぁ♪　はぁ♪」

奏　「ん♪　このまま唾液と混ぜ込んで♪」

奏　「くちゅくちゅくちゅくちゅ♪　くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

奏　「んぐ♪　ごく♪　ごく♪　ごく♪　ごく♪」

奏　「ん、ぷはぁ♪　はぁ、はぁ♪」

奏　「んぶぅ♪　゛お♪　ん゛お♪　゛お♪　゛お゛ぉん♪　んふぅ♪」

奏　「主様のチンカスいただいちゃいました♪」

奏　「あまりのチンカス臭さに私、下品に甘イキしてしまって♪」

奏　「はぁ～♪　主様ぁ♪　ん～、ちゅ♪　ちゅ♪
ちゅ♪」

奏　「もっと主様の美味しいチンカス食べたいです♪」

奏　「ですので、今度はここ♪　カリ首に溜まってる
きったないチンカスおしっこチーズを～♪　ペリ
ペリ～♪」

奏　「て、ゃん♪　チン皮に残ったおしっこでシットリ
と濡れていて♪」

奏　「すぅ～～♪　くん♪　くんくん♪」

奏　「〝おほっ♪　んふぅ♪　はぁ、はぁ♪」

奏　「あぁ♪　何て酷い匂い♪」

奏　「長時間放置されたおしっこが残って……♪　ん
ぶぅ♪　〝おほっ♪　〝お♪　〝お～♪」

奏　「くっさ♪　主様のおしっこチーズくッッッさ♪」

奏　「ふふ♪　この腐った生ごみのようなおしっこチー
ズを～♪　主様の耳元で～♪」

奏　「はぁ～む♪」

奏　「んぐ♪　くちゃくちゃくちゃくちゃ♪　くちゃく
ちゃくちゃくちゃ♪」

奏　「んふふ♪　ん～♪　ごく♪　ごく♪　ごく♪　ごく♪」

奏　「ん、ぷはぁ♪　はぁ、はぁ♪」

奏　「ふふ♪　主様ぁ♪　チンカスおしっこ♪　ご馳走様でした♪」

奏　「とっても臭くて、最低のお味でした♪　ふふ♪」

奏　「って、あらあら♪　主様ってば、私がチンカスを食べる音に興奮されたのですか？」

奏　「もぅ♪　主様の、ドスケベさん♪」

奏　「お耳ご奉仕でそんなに興奮してくださるのでしたら～♪　今度はこちらのお耳で～～♪」

奏　「ペロペロご奉仕♪　させていただきますね♪」

奏　「はぁ～む♪」

奏　「んはぁ♪　はぁ♪　ん♪　主様ぁ♪　んちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

奏　「チンカスも勿論美味しいんですけど♪　耳カスも負けず劣らず素敵なお味で♪」

奏　「あぁん♪　主様の耳カスぅ♪　ん～ちゅ♪　この卑しいメス巫女にもっと味わわせてくださいませ♪」

奏　「んれ～～ろれろれろ♪」

奏　「んぱぁ♪」

奏　「あぁん♪　主様の耳カスとっても美味しいです♪」

奏　「もしこの耳カスとチンカスを一緒に食べたりしたら……ん、ごく♪」

奏　「あぁん♪　主様ぁ♪　どうかチンカスもぉ♪　耳カスと一緒にいただいてよろしいですか？」

奏　「あん♪　ありがとうございますぅ♪　それでは早速ぅ♪」

奏　「今度はチン皮に張り付いたムレッムレの出来立てチンカスを～♪　ペリペリ～♪」

奏　「あん♪　米粒のように大きなチンカスが取れて♪　ん、ごく♪」

奏　「主様ぁ♪　私のチンカスしゃぶり♪　よ～くお聴きくださいね♪」

奏　「はぁ～む♪」

奏　「ぷはぁ♪　はぁ♪　ふふ♪　それでは、チンカスと耳カスのミックスジュース♪　いただきま～ふ♪」

奏　「ん～、くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪　くちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

奏　「ごく♪　ごく♪　ごく♪　ごく♪」

奏　「んぶ、ぷはぁ♪　はぁ♪　はぁ♪」

奏　「ん゛お♪　゛お♪　゛お～～♪」

奏　「んふぅ♪　こんな下品で臭いジュースは初めてです♪」

奏　「これが主様の味♪　主様の下品で臭い、チンカスジュースのお味♪」

奏　「はぁ～♪　くっさ♪　ふふ♪　主様のチンカスジュース♪　くッッッさ♪」

奏　「はい♪　私のおしっこよりも臭い、最ッ低の匂いです♪」

奏　「ふふ♪　はぁ～♪　くっさ♪　くっさ♪　くっさ♪　くッッッさ♪」

奏　「今まで食べたどんなお料理よりも」

奏　「最ッ低で♪　最ッ高のお味でした♪」

奏　「主様♪　どうか今一度、お替りをお恵み下さいませ♪　んれ～ろれろれろ♪」

奏　「ぷはぁ♪　はぁ♪　ん♪　じゅるり♪」

奏　「そうですね～、次はこのカリ首に溜まった、ガビガビのチンカスを♪」

奏　「ん♪　はぁ～♪　あぁん♪　くっさ～い♪　ふふ♪　とっても臭いガビガビチンカス♪」

奏　「主様ぁ♪　はぁ～む♪」

奏　「あむ♪　ん～♪　くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪　くちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

奏　「ごく♪　ごく♪　ん、ぷはぁ♪　はぁ、はぁ♪」

奏　「んふぅ♪　主様のチンカスジュース♪　とっても美味しい♪」

奏　「ん～ちゅ♪　れろれろ♪　ちゅ♪」

奏　「って、あらあらまぁまぁ♪　主様ってばぁ♪」

奏　「おちんぽ様♪　こんなに逞しく勃起されてぇ♪」

奏　「ふふ♪　私のチンカス咀嚼、そんなにエッチでしたか？」

奏　「チンカス臭いメス巫女にぃ……種づけ♪　したくなっちゃいましたか？」

奏　「あぁん♪　嬉しい♪　主様に交尾の対象として見られるだなんて♪　こんな嬉しい事はありません♪」

奏　「主様ぁ♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

奏　「お願いします♪　どうかこの雄々しく反り返った主様のチンカスおちんぽ様で♪」

奏　「私の処女を♪　いただいて下さいませ♪」

トラック０４　処女貫通おまんこセックス

奏　「んふぅ♪　ほぉら♪　主様ぁ♪　よくご覧になってください♪」

奏　「こ～こ♪　おまんこに食い込んだ巫女服をちょこっとズラせば～♪」

奏　「は～い♪　処女おまんこのお披露目です♪」

奏　「ん、あぁん♪　ふふ♪　主様ってば鼻息荒すぎますよぉ♪」

奏　「まるで豚さんみたいな息遣い♪　ふふ♪　流石に気持ち悪いですね♪」

奏　「ですが♪　そんなキモ豚主様も素敵♪　ん～、ちゅ♪」

奏　「あぷ、ちゅ♪　ぶちゅ♪　んちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

奏　「ん、ぁん♪　申し訳ありません♪　もっと甘く蕩ける素敵なセックスにしたかったのですが……あぁん♪」

奏　「ふふ♪　もう我慢の限界です♪」

奏　「主様のおちんぽ様、私の処女おまんこに迎え入れちゃいますね♪」

奏　「はぁ～♪　ん♪　ぁん♪　来ます♪　主様のチンカスと私のマンカスがキスしちゃって♪」

奏　「ん♪　主様ぁ♪　んふぅ♪　来てください♪」

奏　「主様のチンカス臭いおちんぽ様で……私の……♪
　奏のおまんこ♪　主様だけの物にしてください♪」

奏　「ん♪　ぁ♪　んほ♪　゛おぉ♪　クるぅ♪　おちんぽ様ぁ♪　んほぉ♪　クる♪　おちんぽ様クるぅ♪」

奏　「ん゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お～～♪」

奏　「んっっきゅうううぅぅ～～～～ッ♪」

奏　「ん、ぷはぁ♪　はぁ♪　んほ♪　゛お♪　゛お～～♪」

奏　「んふぅ♪　ふぅ、ふぅ～♪　主様のおちんぽ様ぁ♪　いただいちゃいましたぁ♪」

奏　「ん♪　初めてのセックスは痛いと聞き及んでいましたが、ぁん♪　全くそんな事ありませんでしたね♪」

奏　「これも♪　私と主様との相性がいいから、なのでしょうか♪」

奏　「はぁん♪　主様ぁ♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

奏　「切っ掛けはお賽銭ではありましたが、それでも♪　ん♪　主様と巡り合えて、こうやって一つになれて♪　私は幸せ者です♪」

奏　「主様♪　好きです♪　大好きです♪」

奏　「どうかこのまま愛してください♪　私の体を思う存分犯して、主様だけのメスにしてくださいませ♪」

奏　「って、〝お〟ぉん♪」

奏　「ん〝お♪　〝お♪　〝お♪　〝お♪　〝お♪　〝お♪　〝お♪　〝お～～♪」

奏　「んふぅ♪　やっ♪　主様ッ♪　ん♪　しょんな♪　いきなり動かれては♪　んぐぅ♪　〝お♪　〝おッ♪」

奏　「だ、ダメ♪　私、初めてなのに♪　〝おほぉッ♪　んふぅ♪　処女おまんこ気持ちよすぎますぅ♪」

奏　「んぐぅ♪　〝お♪　〝お♪　〝お♪　〝お♪　〝お♪　〝お♪　〝お～♪」

奏　「んぶぅ♪　も、申し訳ありませんッ♪　んぶぅ♪
　エッチな女の子で申し訳ありませんッ♪」

奏　「んほぉおお♪」

奏　「ん゛おおっ♪」

奏　「゛ぉ♪　゛ぉ♪　゛ぉ♪　゛おぉん♪」

奏　「んふぅ♪　ふぅ♪　ふぅ♪　主様ぁ♪　ん、あぁん♪」

奏　「主様もぉ♪　とっても気持ちよさそうなお顔をされてますねぇ♪　ん♪　あぁん♪」

奏　「はぁ♪　はぁ♪　もっとぉ♪　もっと主様のはしたないお顔を見せてください♪」

奏　「主様の可愛いらしいお顔ぉ♪　主様の愛らしいお顔ぉ♪　ん……はぷ！」

奏　「んちゅ♪　じゅるじゅる♪　んちゅ♪　んぁ♪
　主様ぁ♪　しゅきッ♪　はぷっ♪」

奏　「じゅるじゅる♪　んぶぷ♪　ん♪　主ひゃまぁ♪
　れろ♪　ぢゅぷ♪　えぷ♪　んちゅ♪　んぷぷ！」

奏

「ぷはぁ♪　あぁ♪　セックスしながらのドスケベキスぅ♪　んちゅ♪　れ～～ろれろれろ♪　んふぅ♪　ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

奏

「んほぉ♪　しゅきぃ♪　主様大しゅきれすぅ♪　んちゅ♪　ちゅぅ～……ちゅ♪　じゅるじゅるじゅるじゅる♪」

奏

「んぱぁ♪　ん゛おぉ♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛おぉん♪」

奏

「んぶぅ♪　゛おぉ♪　主様ぁ♪　それぇ♪　おちんぽ様グリグリ気持ちいいれすぅ♪」

奏

「ん゛おぉ～～♪　ぶぅ♪　はいぃ♪　おちんぽ様ぁ♪　チンカスグリグリぃ♪　子宮にチンカス擦りつけられるぅ♪」

奏

「あぁん♪　あぁ♪　子宮にマーキングされるんですねぇ♪　この子宮は主様の物だって♪　おちんぽ様の物だって♪」

奏

「ん゛お♪　゛お～～♪　嬉しい♪　主様のチンカスマーキング嬉しいです♪」

奏

「はぁ♪　ぁん♪　もっとぉ♪　もっとチンカスくださぁい♪」

奏

「私もぉ♪　このおちんぽ様は私の大切な主様なんだって♪　マン汁吹きかけてマーキングさせていただきますからぁ♪」

奏

「お互いにぃ♪　マン汁とチン汁をかけあいましょうねぇ♪　主様ぁ♪」

奏

「んあぁん♪　゛おん♪　゛おん♪　゛おん♪　゛おぉん♪」

奏

「んふぅ♪　゛お♪　゛おぉん♪」

奏

「やぁ♪　ダメぇ♪　頭馬鹿になるぅ♪　おちんぽ様で頭馬鹿になりますぅ♪　んほぉぉお♪」

奏

「゛おん♪　゛おん♪　゛おん♪　゛おぉん♪」

奏

「うぐぅ♪　やぁ♪　主様ぁ♪　も、漏れますぅ♪　マン汁ぅ♪　主様のおちんぽ様でぇ♪　マン汁漏れるぅぅぅう♪」

奏

「臭いマン汁ぅ♪　んッッきゅぅぅぅぅぅぅぅ〜〜〜〜〜♪」

奏

「んほぉぉおおお♪　゛おぉん♪　マン汁漏れるぅぅぅ♪　主様のお体にマン汁ぅぅう♪　んふぅぅぅぅう〜〜〜♪」

奏

「ん゛おぉおお♪　やぁ♪　主様ぁ♪　見てくださいぃ♪　清楚な巫女の下品なマン汁ぅ♪」

奏　「んぶぅ♪　゛おぉ♪　マン汁プシュプシュ♪　マン汁プシュプシュぅぅぅ♪」

奏　「んほぉおお♪　゛おん♪　゛おん♪　゛おん♪　゛おん♪　゛おん♪　゛おぉん♪」

奏　「んあぁぁん♪　主様ぁ♪　もぅダメですぅ♪」

奏　「おまんこ♪　んぶぅ♪　おまんこイク♪　マン汁吹きながらイっちゃいますぅ♪」

奏　「主様のチンカスに犯されてぇ♪　下品なお漏らしで思いっきりイキますぅ♪」

奏　「メスイキしちゃいますぅ♪」

奏　「んほぉお♪　ん゛お♪　゛おぉん♪」

奏　「あぅ～♪　主様もぉ♪　おちんぽ様ビクビクされてぇ♪」

奏　「んふぅ♪　イクんですねぇ♪　おちんぽ様イってくださるんですねぇ♪」

奏　「はぃぃ♪　来てください♪　どぴゅどぴゅって♪　主様のくっさいチンカスザーメン♪　どぴゅぴゅ～～って出してください♪」

奏　「んあぁん♪　主様ぁ♪　主様主様主様主しゃま～～♪　出してぇ♪　奏の中に出してぇ～♪」

奏　「゛おぉ♪　私も一緒にイギますからぁ♪」

奏　「んぶぅ♪　おぉん♪」

奏　「゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪」

奏　「゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛おぉ～～ん♪」

奏　「おまんこイグッ♪　おまんこイグぅッ♪」

奏　「チンカスアクメ来るッ♪　チンカスプレイでアグメイグぅぅ♪」

奏　「ん゛ぉ～～♪　イグイグイグイグイグイグイグイグぅ～～ッ♪」

奏　「おまんこイッッグぅううううぅ～～～～♪」

奏　「゛おっほぉおおおぉ～ッ♪」

奏　「゛おぉぉぉ♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お～～♪」

奏　「んふぅ♪　お、おちんぽ様ぁ♪　あぁ♪　凄いですぅ♪　これがお射精♪　おちんぽ様の中出しぃ♪」

奏　「んぶぅ♪　んぉ♪　ぉ♪　ぉ～～♪」

奏　「はぁ♪　はぁ♪　ん～♪　ぴゅぴゅってお射精される度にぃ♪　あぁん♪　イっちゃいますぅ♪　おまんこ甘イキしちゃいますぅ♪」

奏　「はぁ、はぁ♪　主様ぁ♪　ん……ちゅ♪　ちゅ♪　ちゅ♪　ん～……ちゅ♪」

奏　「好きぃ♪　主様大好きれしゅ～♪　ん、ちゅ♪」

奏　「どうか、おちんぽ様が落ち着かれるまで……ん♪　私のおまんこプールでゆっくりなさってくださいませ♪」

奏　「ん、ちゅ♪　ふふ♪　愛しております♪　主様ぁ♪」

奏　「ちゅ♪　んちゅ♪　ちゅ……ちゅぅぅ～～～……ちゅ♪」

トラック０５　お掃除チンカスフェラ＋チンカス酒

奏　「主様♪　おまんこへのお射精、お疲れ様でした♪」

奏　「おちんぽ様もご満足いただけて私も嬉しいです……って、あらあらまぁまぁ♪」

奏　「ふふ♪　主様ってば、あんなに力強いお射精をされたのに、まだこんなにおちんぽ様大きくされて♪」

奏　「もぅ♪　本当に素敵で可愛らしいおちんぽ様♪」

奏　「えぇ、構いませんよ？　主様のおちんぽ様を綺麗にするのも巫女の役目ですから♪」

奏　「マン汁とチンカスで汚れてしまったおちんぽ様を、私のお口で♪　優しく清めて差し上げますね♪」

奏　「それでは……ん……しょ……っと……」

奏　「うわぁ……♪」

奏　「これが私を犯してくださったおちんぽ様なのですね♪」

奏　「改めて間近で見てみると……くん♪　くんくん♪」

奏　「あぁん♪　ひっどい香りぃ♪　鼻が曲がりそうな程臭いですぅ♪」

奏　「はぁ～♪　セックスしたてのムレムレおちんぽ様♪　ホカホカおちんぽ様♪」

奏　「くん♪　くんくん♪　ふふ♪　くっさ♪　主様のおちんぽ様♪　とっても臭いですぅ♪」

奏　「折角おまんこでチンカスゴシゴシしたのに、もう新しいチンカスが張り付いて♪」

奏　「ふふ♪　チンカスくっさ♪　チンカス……くッッッさ♪」

奏　「ん……ちゅ♪　ふふ♪　そうですね♪　折角の機会ですから……♪」

奏　「主様？　本日はこちら♪　主様のくっさいチンカスを使って、口噛み酒を造ってみてもよろしいでしょうか？」

奏　「口噛み酒とは、清楚な巫女がお米を口に入れて噛み、それを吐き出し放置して造るお酒の事なのですが」

奏　「今回はお米ではなく、主様のチンカスでお造りしたいのです♪」

奏　「主様のチンカスと私の唾液が合わされば、きっと美味しいチンカス酒が出来ると思いますので♪私に全てお任せくださいませ♪」

奏　「では早速……♪」

奏　「おちんぽ様にべっとりと張り付いたチンカスザーメンをお口の中に……♪」

奏　「失礼致致します♪　はぁ～む♪」

奏　「んぱぁ♪　はぁ♪　ちゅ♪　じゅるじゅる、ん♪　ちゅ♪」

奏　「はぁ♪　主様のチンカス美味しすぎますぅ♪　んちゅ♪　じゅるじゅる♪　ん～、ちゅぱぁ♪」

奏　「とっても濃くってネバっこくて♪」

奏　「ん～♪　クセになるお味♪」

奏　「それにぃ♪　れ～～ろれろれろ♪　ん～、ちゅ♪　ふふふ♪」

奏　「同じチンカスでも、おちんぽ様の場所によって、味も濃さも段違いですね♪」

奏　「う～ん♪　例えば～♪　こ～ち～ら♪　おちんぽの先っぽには出したてザーメンが混じった新鮮なチンカスがいっぱいで♪」

奏　「ん～ちゅ♪　れろれろ……ん～……ごく♪　ごく♪」

奏　「ふふ♪　活きのいいプリプリザーメンはのど越し抜群♪　これならいくらでもごっくん出来ちゃいます♪」

奏　「お次は～……こ・ち・ら♪　チン皮にくっついたムレムレチンカスチーズ♪」

奏　「熟成された濃厚なチーズのように黄ばんだチンカス♪」

奏　「軽くベロでつつくだけで……んれ～～～……ろれろれろ♪　ちゅ、ちゅ♪」

奏　「んほぉ♪　口の中がチンカス臭でいっぱいぃ♪　んふぅ♪　〝お♪　〝お～～♪」

奏　「んふぅ♪　あぁ♪　美味しい♪　主様のチンカスチーズ♪　とっても美味しいですぅ♪」

奏　「で・す・が♪　やはり一番美味しいチンカスは……こちら♪」

奏　「おちんぽ様のカリ首に溜まったチンカスおしっこチーズ♪」

奏　「包茎おちんぽ様では洗い流せない、おしっことザーメンが溜まりに溜まって出来た、一番臭くて汚い、最低最悪の汚チンカス♪」

奏　「これを私の柔らかいベロで～……♪　んれ～～～ろれろれろ♪　ちゅ♪　ん～、ちゅぱぁ♪」

奏　「んふぅ♪　本当に酷いお味♪　こんな臭くて汚い物♪　初めて食べました♪」

奏　「ふぅ、んふぅ♪　主様ぁ♪　これらのチンカスを全て口に含み♪　咀嚼し♪　吐き出して♪　最高のチンカス酒を造りますから♪」

奏　「主様のおちんぽ様♪　全て咥えさせていただきますね♪」

奏　「はぁ～～むぅ♪」

奏　「ん～～♪　じゅる♪　じゅるる♪　じゅるるるる♪　ん～♪」

奏　「んぶ♪　んぶ♪　んぶ♪　んぶ♪　んぶ♪　んぶ♪　んぶ♪　んぶ♪」

奏　「んぐ♪　んぐ♪　んむ♪　ぷはぁ♪　はぁ♪　はぁ♪」

奏　「んぐっ♪　“お♪　“おぐぅ♪」

奏「口の中がチンカスとザーメンでいっふぁい♪　んぶぅ♪」

奏「一度こちらで……ん♪　咀嚼させていただきまふね？」

奏「はむ♪　ん♪　くちゃくちゃくちゃくちゃ♪　くちゃくちゃくちゃくちゃ♪」

奏「ん……しょのまま升に吐き出して……んれ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜♪」

奏「んぷ……ちゅぷ……ん♪　こちらが口噛み酒ならぬ、チンカス酒♪」

奏「あぁ♪　まだ発酵前だというのにこの香り♪」

奏「私の唾液とチンカスが溶け合って♪　ふふ♪　とっても美味しそう♪」

奏「ですが、この程度の量ではまだまだ足りません♪」

奏「主様♪　もっと沢山、臭くて汚い、最低最悪のチンカスおしっこ♪　食べさせてくださいませ♪」

奏「ん、あぁ〜……んむぅ♪」

奏「んぶぅ♪　んぶ♪　んぶ♪　んぶ♪　んぶ♪　んぶ♪　んぶ♪　んぶ♪　んぶ♪」

奏　「んぶぅ♪　んちゅ♪　じゅるじゅる♪　ん♪　んむぅ！？」

奏　「んぐっ！　げほっ！　げほげほっ！　うっぷ！　主様？」

奏　「そんな急におちんぽ様大きくされて……ぁ、もしかして……またお射精しちゃいそうなのですか？」

奏　「あらあらあら♪　んもぅ♪　主様のおちんぽ様は絶倫さんでいらしたのですね♪」

奏　「それでは……ん、ちゅ♪　いいですよ？」

奏　「私のお口を便器に見立てて、さぁ♪　主様のチンカスとザーメンをこのお口便器にこき捨ててくださいませ♪」

奏　「はぁ～～む♪」

奏　「ん、ん～～♪　んぶ♪　んぶ♪　んぶ♪　んぶ♪」

奏　「んぐ♪　んむぅ～～♪　主ひゃま♪　ろうぞ♪　んぶんぶんぶんぶ♪　ん、んぶぅ～♪」

奏　「らひてくらひゃい♪　思いっきりぃ♪　んぶ♪　んぶぶぅ～～♪」

奏　「おひんぽひゃま♪　んちゅ♪　じゅるじゅる♪
　んぶぷ♪　んちゅ♪　らひて？　らひてぇ♪」
奏　「んちゅ♪　じゅる♪　じゅるる♪　じゅるるる♪
　　じゅるるるるぅ～～～～～♪」
奏　「んぶぅぅぅぅぅ～～～～～～♪」
奏　「んぐっ♪　んぶぶ～～～……！！」
奏　「んぶ♪　ん、ごく♪　ごく♪　ごく♪　ごく♪」
奏　「んぐっ！　しょんなッ、まら出て……んぶぅ♪」
奏　「ん、んむぅ♪　んぷっ♪　ん♪　ごく♪　ごく♪
　　ごく♪　ごく♪」
奏　「んぐ、ぷはぁ♪　はあ、はぁ、んっぷ……♪
　はぁ、はぁ♪」
奏　「んもぅ♪　主様ってば、出しすぎですよぉ♪」
奏　「本来でしたらチンカス酒用に吐き出す予定でした
　のに、んっぷ♪　思わずごっくんしてしまった
　じゃないですかぁ♪」
奏　「ふふふ♪　これは♪　今一度おちんぽ様からチン
　カスザーメンをお搾りしなくてはなりませんね
　♪」

奏　「ですが、はふぅ……少しお口が疲れてしまったので」

奏　「次は～……こちら♪」

奏　「私の不浄の穴♪」

奏　「より下品な言い方をすれば、私のケツ穴で♪　主様のチンカスを搾り取って差し上げますね♪」

トラック０６　巫女のケツ穴ご奉仕

奏　「はぁ、はぁ♪　んふふ♪　このように人前でケツ穴を晒すだなんて、お母様に座薬を入れてもらった時以来でしょうか♪」

奏　「んふぅ♪　ふぅ♪　勿論♪　殿方にお見せするのは主様が初めてですよ？」

奏　「んはぁ♪　主様ぁ♪　いかがでしょうか？　私のケツ穴は♪」

奏　「毎朝神社の裏手にある清めの滝で綺麗に洗い流している、清楚で清潔なケツ穴♪」

奏　「どうか主様のおちんぽ様で♪　私のケツ穴をエッチする為のメス穴に変えてくださいませ♪」

奏　「ん……ぁん♪　あぁ♪　主様ぁ♪　んぶぅ♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お～～♪」

奏　「き、来ますぅ♪　主様のおちんぽ様がぁ♪　んふぅ♪　ケツ穴にぃ♪　ミチミチって入ってきますぅ♪」

奏　「ん～♪　あぁん♪　主様ぁ♪」

奏　「はぃぃ♪　私からもぉ♪　両手を頭の後ろに組んでぇ♪　ガニ股座りでおちんぽ様お迎えしますぅ♪」

奏　「んふぅ♪　さぁ♪　主様ぁん♪」

奏　「ケツ穴の皺を～♪　おちんぽ様で丁寧に剥きながらぁ♪　んほ゛ぉ～～♪」

奏　「おちんぽ様来るぅ♪　おちんぽ様でケツ穴イグぅぅぅう～～～～♪」

奏　「んっほぉぉおおぉぉ～～～～♪」

奏　「んほぉおおお♪　゛お♪　ん゛お♪　゛お♪　゛お～～♪」

奏　「んふぅ♪　あ、主様ぁ♪　これは想像以上に、ぁん♪　気持ちよすぎますぅ♪」

奏　「はぁ、はぁ♪　ん♪　申し訳ありません♪　主様のおちんぽ様に慣れるまで、今暫くお待ちいただけますと……」

奏　「って、んほぉおお～～～～！？」

奏　「んほッ♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お～～♪」

奏　「そ、そんな！　主様！？　いきなり腰を動かされてはッ！　んひぃッ！？」

奏　「ん゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お～～♪」

奏　「あぁん♪　頭に響きますぅ♪　お尻で感じちゃいますぅ♪　んほぉおん♪」

奏　「あぁん♪　主様ぁ♪　申し訳ありません♪　私は清楚な巫女さんなのにぃ♪」

奏　「こんなぁ♪　んほぉぉお♪　ケツ穴で感じる変態で申し訳ありません♪」

奏　「ドスケベな女で申し訳ありません～～♪」

奏　「ん～♪　あぁん♪」

奏　「でもでもぉ♪　それもこれもぉ♪　主様のおちんぽ様が素敵すぎるのが悪いんですぅ♪」

奏　「主様のチンカスもぉ♪　主様のザーメンもぉ♪　全部素敵すぎるのがイケナイんですぅ♪」

奏　「ですからぁ♪　主様は責任をもってぇ♪　私のケツ穴を調教してくださぁい♪」

奏　「私のケツ穴は主様の物なんだって♪　おちんぽ様で分からせてくださぁい♪」

奏　「んあぁん♪　お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お～～♪」

奏　「あぅぅ♪　もぅダメぇ♪」

奏　「イグぅ♪　イガされますぅ♪　主様のチンカスでぇ♪　おちんぽ様でぇ♪」

奏　「んぐぅ♪　ケツ穴イグぅ♪　ケツ穴アクメイグぅッ♪」

奏　「イグイグイグイグイグイグイグイグぅ♪」

奏　「ケツ穴イッッッぐぅぅぅぅぅぅぅぅ～～～～ッ♪」

奏　「んっほぉぉおおおぉぉおおお～～～～ッ♪」

奏　「〝おぉおおお♪」

奏　「ん〝ぉ♪　〝ぉ♪　〝ぉ〝ぉ～♪」

奏　「んぐぅ♪　んぉ♪　ぉ♪　ぉ～♪」

奏　「あぅ～♪　お尻の穴でイっちゃいましたぁ……♪」

奏　「んふぅ♪　ふぅ♪　ふぅ♪　主様ぁ♪　申し訳ありません♪」

奏　「私だけ先にイってしまって……ん、ぁん♪」

奏　「んふぅ♪　はぁ、はぁ♪　うぅ♪　主様ぁ♪」

奏　「って、んほぉぉおお～～♪」

奏　「゛お♪　゛おおおっ♪」

奏　「主様ぁん♪　私、まだイッたばかりなのに♪　そんな激しくぅ♪」

奏　「あぅ～♪　おちんぽ様凄すぎますぅ♪　絶倫おちんぽ様ぁ♪　包茎おちんぽ様ぁ♪　チンカスおちんぽ様ぁ♪」

奏　「んほぉおお♪」

奏　「ひぐぅぅぅ♪　んぐっ、ひゃぁん♪」

奏　「やぁ♪　主様ぁ♪　私のお尻を叩くだなんてぇ♪」

奏　「んひぃッ♪　やぁ♪　ペチペチ叩いては困りますぅ♪」

奏　「んぐぅ♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お～～♪」

奏　「やぁ♪　ダメぇ♪　またイグぅ♪　デカ尻叩かれてイグぅ♪　ケツ穴犯されてイグぅぅぅ♪」

奏　「イグ♪　イグ♪　イグ♪　イグぅぅぅ♪」

奏　「んッッきゅぅぅぅぅぅぅぅ～～～～♪」

奏　「んぷっ、あぁんッ♪　やぁ♪　あ、主様ぁ♪」

奏　「私ぃ♪　今軽くイっちゃってぇ♪　んぁあん♪」

奏　「゛お♪　゛お♪　゛おぉん♪　やぁ♪　あ、主様♪　主様ぁ♪」

奏　「んぶぅ♪　やぁ♪　また私だけイクなんてぇ♪　そんなのダメですぅ♪」

奏　「今度は主様も一緒にぃ♪　ぁん♪　一緒にイってください♪」

奏　「私ぃ、頑張りますからぁ♪」

奏　「ギュギュ～ってケツ穴締め付けますからぁ♪」

奏　「ですからぁ♪　主様のチンカスザーメンいっぱい注いでくださいませぇ♪」

奏　「はぁ♪　ん、あぁん♪」

奏　「おほぉぉお♪　主様ぁ♪　またイギますぅ♪　ケツ穴アクメでイっちゃいますぅ♪　んほぉお♪」

奏　「゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪」

奏　「゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛おぉ～～ん♪」

奏　「ケツ穴イグぅ♪　ケツ穴イグぅぅう♪」

奏　「イグ♪　イグ♪　イグ♪　イグ♪　イグ♪　イグ♪　イグ♪　イグぅ♪」

奏　「イグイグイグイグイグイグイグイグぅ～～～♪」

奏　「ケツ穴イッッッぐぅうううううう～～～～ッ♪」

奏　「おッほぉぉおおおおおお～～～～♪」

奏　「んほぉぉおおおおお♪」

奏　「んひぃいい♪　あぁん♪　ケツ穴ぁ♪　ケツ穴イギましゅぅ♪」

奏　「おちんぽ様に中出しされてぇ♪　ケツ穴イってましゅぅ～～♪」

奏　「ケツ穴アクメでイってましゅぅ～～～……♪」

奏　「んほッ♪　んふぅ♪　゛お♪　゛お♪　゛お♪　゛お～～……♪」

奏　「んはぁ♪　はぁ、はぁ♪　んっぷ♪」

奏　「え、えへへ♪　主様ぁ♪　やっと……ん♪　おちんぽ様収まってくださいましたね♪」

奏　「はぁ、はぁ♪　んふふ♪　はい♪　初めての体験でしたが、主様に気持ちよくなっていただけて嬉しいです♪」

奏

「ふぅ……仕上げに……ん♪　先ほど溜めたチンカス酒に……お尻に注いでくださったザーメンを足して……♪」

奏

「ん、しょ♪　ん、しょ……っと♪」

奏

「はぁ、はぁ♪　主様ぁ♪　見ていてください♪」

奏

「こちら、私と主様が愛し合って出来た、チンカス酒の原液になります♪」

奏

「ふふ♪　この原液を時間をかけて発酵させれば、きっと美味しいチンカス酒ができるはずです♪」

奏

「そしてもし叶うのでしたら……いつか、私と主様が神前式を上げる際に、このチンカス酒で盃を交わせれば……♪」

奏

「何て♪　ふふ♪　少々妄想が過ぎましたね♪　主様、どうか今の言葉は忘れてくださ……って、ひゃうッ！？」

奏

「てッ、わわ！　主様？　そんな……ん♪　急に抱き着かれては驚いてしまいます……って、あぷっ！？」

奏

「ん、ちゅ♪　ちゅぷ♪　ぷちゅ♪　ん、あ、主ひゃま……♪　んちゅ♪　れろ♪　ちゅ♪　んぷちゅ♪　ちゅ……ちゅ♪」

奏　「ん～……ぷはぁ♪　はぁ、はぁ……♪　ぅ～……こんな熱い口づけをされては……私……勘違いしてしまいますよ？」

奏　「ん……ふふふ♪　もぅ♪　主様ってば♪　本当に素敵なお方なのですから♪」

奏　「かしこまりました♪」

奏　「こんな貧乏な神社と、下品でドスケベな体しか持たない私ですが」

奏　「どうかこの先も一生、主様だけの巫女として♪　一人の女として♪　一匹のメスとして♪　お傍にお仕えさせていただきます♪」

奏　「私だけの、愛しの主様♪　ん……ちゅ♪」

トラック07　ラブラブ囁きチンカス弄り

奏　「主様ぁ♪　本日は私の我儘を聞いてくださりありがとうございます♪」

奏　「普段のエッチではいつも主様に主導権を握られてしまっておりましたので」

奏　「本日は私が……♪　主様のお耳元で……♪」

奏　「精一杯ご奉仕させていただきますね♪」

奏　「はぁん♪　主様ぁ♪　ん～……ちゅ♪　ちゅ♪　ちゅ♪」

奏　「ふふ♪　主様ぁ♪　好きぃ♪　大好きですぅ♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

奏　「はぁ～♪　好き♪　好き♪　好き♪　すき♪」

奏　「主様ぁ♪　ん～ちゅ♪　れ～～ろれろれろ♪」

奏　「ん、ぷはぁ♪　んふふ♪　もぅ♪　主様ったらぁ♪」

奏　「先日もお口でお耳掃除してさしあげたのに、もぅこんなに耳カスを溜められて♪」

奏　「んふふ♪　いいんですよ？　私の為に耳カスを溜め込んでくださったんですよね？」

奏　「あぁん♪　お優しい主様♪　ご安心ください♪」

奏　「主様の耳カスは、全て余さず舐め取らせていただきますから♪　んれ～～ろれろれろ♪　んちゅ♪　じゅる♪　ちゅ、ちゅぷ♪」

奏　「ぷはぁ♪　はぁ、ん～♪　お口の中が耳カスでいっぱぁい♪」

奏　「ふふ♪　主様の大好きな耳カスごっくん♪　聞かせてあげますね♪」

奏　「はぁむ♪　ん～♪　くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪　くちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

奏　「んぷ♪　ん♪　ごく♪　ごく♪　ごく♪　ごく♪」

奏　「ん～……ぷはぁ♪　はぁ、はぁ♪」

奏　「ふふ♪　主様の耳カス♪　ご馳走様でした♪」

奏　「とっても臭くて、粘っこい、最高の耳カスです♪」

奏　「って、あらあらあら♪」

奏　「主様ってばぁ♪　おちんぽ様、もぅ勃起させちゃったんですかぁ？」

奏　「ふふ♪　嬉しい♪　主様に興奮していただけて……ん、ぁん♪」

奏　「私もぉ♪　あまりの喜びにおまんこが濡れてきちゃいました♪」

奏　「はぁ、はぁ♪　あぅ♪　主様ぁ……♪」

奏　「耳カスだけでなく、こちら♪　主様のチンカスもいただいちゃいますね♪」

奏　「ん♪　こうやって～♪　チンカスでベッタリ張り付いたチン皮を～♪」

奏　「私の綺麗な指で丁寧に～♪」

奏　「は～い♪　チン皮ムキムキ～♪　チン皮ムキムキ～♪」

奏　「あぁん♪　主様のきったないチンカス出てきましたぁ♪」

奏　「はぁ～♪　くん♪　くんくん♪　んほッ♪　゛お♪　゛おお♪」

奏　「んふぅ♪　相変わらずくっさいチンカスですね♪」

奏　「あまりの臭さに、思わず下品な声を上げてしまいましたぁ♪」

奏　「ふふ♪　あぁ♪　本当に臭くて、美味しそうなチンカス♪」

奏　「主様ぁ♪　私のチンカスしゃぶり♪　よく聞いてくださいね？」

奏　「ん♪　はぁ～む♪　ん～♪」

奏　「ん、ちゅぱぁ♪　んふふ♪　ほのまま～♪　お口の中れ～♪」

奏　「ん～♪　くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪　くちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

奏　「んふ♪　ごく♪　ごく♪　ごく♪　ごく♪」

奏　「ぷはぁ♪　はぁ、ん♪　ふふふ♪　主様のチンカス♪　とっても美味しい♪」

奏　「ん～ちゅ♪　主様ぁ♪　チンカス臭い耳舐めも♪　是非楽しんでくださいませ♪」

奏　「ん～～ちゅ♪」

奏　「はぁ♪　おちんぽ様ぁ♪　おちんぽ様♪　おちんぽ様♪　おちんぽ様♪　おちんぽ様ぁ～ん♪」

奏　「私の耳舐めで勃起した変態おちんぽ様♪」

奏　「チンカス塗れでくっさいお下劣おちんぽ様♪」

奏　「おしっこも上手に拭けない包茎おちんぽ様♪」

奏　「ふふ♪　主様の、愛しい愛しいおちんぽ様♪　ん〜、ちゅ♪」

奏　「はぷ♪　じゅるじゅる♪　んちゅ♪　ちゅぷっ♪　ぶちゅ♪　ん♪　ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

奏　「ん♪　主様ぁ♪　見てください♪　んれ〜〜〜〜♪」

奏　「んむ♪　ふふ♪　こんなに大きな耳カスが取れました♪」

奏　「せっかくですからぁ♪　こちら♪　カリ首に溜まったチンカスおしっこと一緒にぃ♪」

奏　「あぁ〜む♪　んむ♪　くちゃくちゃくちゃくちゃ♪　くちゃくちゃくちゃくちゃ♪」

奏　「んふふ♪　いきまふね〜？　ん〜む♪」

奏　「ごく♪　ごく♪　ごく♪　ごく♪」

奏　「んぷっ♪　ぷはぁ〜〜♪　はぁ、はぁ♪」

奏　「ふふ♪　主様ぁ♪　耳カスとチンカスのミックスジュース♪　ご馳走様でした♪」

奏　「本当に素晴らしい、極上のミックスジュースでぇ♪　んほッ♪　〝お♪　〝おぉん♪」

奏　「ふふ♪　軽くイってしまいましたぁ♪」

奏　「はふぅ♪　主様ぁ♪　もっともっと主様の耳カス食べたいです♪」

奏　「けれど、こちらのお耳は綺麗になっていしまいましたので」

奏　「今度は……んふ♪　こ～ち～ら♪」

奏　「主様の右耳にも♪　ご奉仕させていただきますね♪」

奏　「ん♪　はぁ♪　主様ぁ♪　んちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

奏　「ん♪　くん♪　くんくん♪　はぁ♪　くっさ♪」

奏　「主様のお耳♪　とっても臭いです♪」

奏　「お耳の周りに張り付いた耳垢も♪　ムレッムレの耳カスも♪」

奏　「すぅ～～～……はぁ～～～～～♪　くっさ♪　主様の耳カス臭すぎますぅ♪」

奏　「こんな臭い耳カスを私のような巫女さんにしゃぶり取らせるだなんて♪」

奏　「主様の、ドスケベさん♪」

奏　「そんなドスケベな主様のお耳は～♪　同じくドスケベな巫女さんのなが～いベロで～♪」

奏　「舐めしゃぶって差し上げますね♪」

奏　「んれ～～～ろれろれろ♪」

奏　「んちゅ♪　ぷはぁ♪　はぁ、はぁ♪」

奏　「ふふ♪　これまた大きな耳カスが取れちゃいましたね～♪」

奏　「んむ♪　えぷっ♪　このままでは耳カスが大きすぎてのどに詰まってしまいます♪」

奏　「ですから～♪　しっかり唾液と混ぜ混ぜして～♪」

奏　「ん～♪　くちゅくちゅくちゅくちゅ♪　くちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

奏　「ごく♪　ごく♪　ごく♪　ごく♪」

奏　「ん♪　ぷはぁ♪　はぁ、はぁ♪」

奏　「ん～♪　主様の耳カスぅ♪」

奏　「あまりにも臭すぎてぇ♪　お口の中がピリピリ痺れてしまいますぅ♪」

奏　「すぅ～♪　はぁ～～♪　ん～♪　くっさい香りが全身に巡ってぇ♪」

奏　「主様ぁ♪　もっとぉ♪　もっと耳カスしゃぶらせてくださいませ♪」

奏　「んれ～～ろれろれろ♪」

奏　「んちゅ♪　ふふ♪　あぁくっさ♪　主様の耳カスくッッッさ♪」

奏　「それとこちら♪　主様のチンカスもぉ♪」

奏　「はぁい♪　ペリペリ♪　チンカスペリペリ～♪」

奏　「ふふ♪　チン皮に張り付いたくっさいチンカスチーズ♪」

奏　「くん♪　くんくん♪　んほッ♪　゛お♪　゛おぉ～♪」

奏　「はぁ♪　くっさ♪　チンカスくッッさ♪」

奏　「じゅるり♪　ん、主様のチンカス♪　いただきま～す♪　はぁ～む♪」

奏　「んちゅ♪　ん～♪　ごく♪　ごく♪　ごく♪　ん、ぷはぁ♪　はぁ、はぁ♪」

奏

「ふふ♪　大好きな主様の耳カスとチンカスの食べ比べ♪　あぁん♪　何て贅沢なご馳走なんでしょう♪」

奏

「こんな素敵な体験をしてしまったら、もうチンカスが無い生活など考えられません♪」

奏

「今後は毎朝主様のチンカスお掃除から始まり、お昼はチンカスのふりかけご飯♪」

奏

「おやつは主様の耳カスを舐めしゃぶり、晩御飯は出したておしっこザーメンとチンカスチーズのフルコース♪」

奏

「勿論♪　主様がお望みでしたらお口でも♪　おまんこでも♪　ケツ穴でも♪」

奏

「お好きなメス穴でチンカスご奉仕させていただきます♪」

奏

「あぁん♪　そんな幸せな生活を想像しただけで……んふぅ♪　〝お♪　〝お♪　〝お♪　〝お～～♪」

奏

「うぐっ♪　イグぅ♪　毎日チンカス生活なんてしたら……イグぅ♪　私、イキ狂ってしまいますぅ♪」

奏

「主様ぁ～♪　好きぃ♪　はぃ♪　好きです♪　大好きです♪」

奏　「主様♪　主様♪　主様♪　主様ぁん♪」

奏　「好き♪　好き♪　好き♪　好き♪」

奏　「主様ぁ♪　愛しております♪　主様のお顔も♪
唾液も♪　耳カスも♪　おちんぽ様も♪　チンカスも♪　おしっこも♪」

奏　「文字通り♪　主様の全てをお慕い申し上げております♪　ん～、ちゅ♪」

奏　「んふふ♪　主様ぁ～♪　主様♪　主様ぁ～♪」

奏　「はい♪　私はいつまでもここに♪　主様のお傍におりますから♪」

奏　「こんなスケベで救いようのないド変態ですけどもぉ♪」

奏　「どうかこれからも♪　一生主様にご奉仕させてくださいませ♪」

奏　「主様♪　愛しております♪　ん～……ちゅ♪」